

令和7年度「総合的な探究の時間」の全体計画

1 「総合的な探究の時間」の校内での名称（実施学年ごとに記入する）

- | |
|---|
| 1 学年「総合的な探究の時間」
2 学年「総合的な探究の時間」
3 学年「総合的な探究の時間」 |
|---|

2 学校の教育目標

「知性高く、人間味豊かに、心身ともに健康な人を育成する」 ア 知・徳・体を兼ね備えた人材を育成し、高いレベルでの文武両道を実現する。 イ 生徒主体の教育を実践することで、「よく学び、よく考え、善く行動する人」を育成する。 ウ 生徒の心を育て、人間性を向上させるとともに、何事にも全力で取り組み、困難なことも乗り越えていける忍耐力や突破力を身に付けさせる。 エ 生きて働く知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力の涵養に努める。 オ グローバル社会に対応し、多様な人々とコミュニケーションがとれる人間を育成する。 カ 高度な情報を管理する能力や自他を尊重し、社会に貢献しようとする意欲を有する人間を育成する。
--

3 各学校において定める「総合的な探究の時間」の目標

探究的な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を通して、本校のグランドデザインに示された育成すべき資質・能力「自らの知性を高める力 人間味豊かにより善く生きる力 心身ともに向上しようとする力」、総合的な探究の時間の目標に示された「自己の在り方生き方を考えながらよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力」を育成する。
--

4 生徒・学校・地域の実態

生徒は素直で純朴である。多くの生徒が大学進学を目指し、授業を真面目に受け、学校行事、委員会活動、部活動に熱心に取り組んでいる。学校は文武両道を重視し、生徒主体の教育活動を実践し、第一志望の進路を実現させるための様々な取り組みを行おうとしているが、主体的に行動することに自信がもてず、何をしてもよいのか戸惑う生徒も多い。失敗を恐れずにチャレンジする気持ちを育むことが必要である。 また、学校運営連絡協議会、学校説明会やホームページによる広報活動、学校行事の公開、地域行事への生徒のボランティア参加、登下校の交通マナーの指導等を通じて、地域との信頼関係構築に努めている。
--

5 指導体制（実施学年ごとに記入する）

- | |
|--|
| 1 学年は、週時程に位置付け（50分1単位）、学年担任、副担任（計16名）が担当する。
・進路指導部がテーマ設定や学習計画等の全体設計を行い、学年担任とともに指導を進める。
・体験活動に関しては、週時程以外の実施も含める。
・内容に応じて外部講師、進路指導部、各教科担当の協力を得ながら実施する。
・総括的評価は文章記述によるものとし、生徒の活動の様子、自己評価や相互評価を記した学習記録、レポート等の成果物、教員や外部講師のコメント、ポートフォリオ等を多面的、総合的に評価する。
総括的評価、形成的評価においては、ループリック等による信頼できる評価指標を活用する。
2 学年は、週時程に位置付け（50分1単位）、学年担任（8名）が担当する。
・進路指導部がテーマ設定や学習計画等の全体設計を行い、関係する教科、教員と連携して進める。
3 学年は、週時程に位置付け（50分1単位）、学年担任（8名）が担当する。
・進路指導部がテーマ設定や学習計画等の全体設計を行い、関係する教科、教員と連携して進める。 |
|--|

6 育てようとする資質や能力及び態度

この時間における探究課題の解決を通して、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。実社会や実生活と自己の関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。探究に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

7 内容（学習対象、学習事項）（実施学年ごとに記入する）

1 学年は「人間と社会」を「総合的な探究の時間」で代替する。準教科書のいくつかの単元を重点的に取り扱い、12 時間以上の体験活動および探究の過程を含む内容で実施する。具体的な探究活動は以下の通りである。

- 横断的・総合的な課題・・・外部におけるインタビュー活動（社会人訪問）を含めた探究活動を実施し、教科横断的な学びに取り組む。
- 地域・学校の特色に応じた課題・・・防災訓練における実技実習を通して、災害時の自助、共助、公助について学び、地域での果たすべき役割を考える。
- 職業や自己の進路に関する課題・・・大人図鑑（社会人講話イベント）や職業人講話を通して、自己の在り方や生き方について考え、課題を発見する。
- 生徒の興味・関心に基づく課題・・・キャリアパスポートに基づく自己の興味・関心に基づいた探究活動を実施し、学年末において成果発表を行う。

2 学年は、「1 学年で実施した探究活動」×「海外」をテーマとした探究活動を継続実施する。問題解決能力の育成とSDGs 達成を目標としたグローバルな視点と自己に対する俯瞰的な視野を養う。後半では、探究活動の成果を振り返るとともに自分史およびマインドマップ作成を通して自己理解を深めることにより、将来へのキャリアビジョンを明確にする。

3 学年は、キャリアビジョンに基づいた未来探究を進め、希望するキャリアを実現するためのセルフプロデュースや業界研究を実施する。成果については保護者と共有を図る。

8 学習活動

教科の目標やそのための方策を広く共有するため、ホームルーム単位、学年単位での活動を主とする。1 学年では「探究」の基礎を学び、2 学年以降の「職業や自己の進路に応じた課題」「横断的・総合的な課題」につなげていく。また、3 学年の体験活動は、年間を通じて週授業時間割の中に位置付け、実施する。

9 指導方法

年間の指導計画に応じ、一斉指導やアクティブラーニング形式の形態を活用する。生徒、教員、地域の方々等を含めた協働的な学習活動の充実を図る。

10 各教科等との関連

探究課題の解決に際し、各教科・特別活動の学習内容を積極的に活用させるとともに、探究課題の解決を通して身に付けた知識・技能や態度を各教科・特別活動の学習活動に活用させる。

11 外部との連携

都内および近県の事業所（社会人訪問インタビュー）
西東京消防署・西東京市役所（防災訓練）
都内各大学（キャンパス訪問、進路講演会）

令和7年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(1 学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	探究活動のガイダンス	■講演・演習 - 探究活動の目的、年間の授業計画、 - 個人の探究テーマを設定するためのガイダンスを行う。 - 大人図鑑(職業人講話)を通して、社会で働くことへの理解を深める。 - TGGでの活動を通して、グローバル社会への理解を深める。	活動(AL)の様子、ポートフォリオへの記入内容等に基づき、形成的に評価する	2
		社会で働くことの意義について理解を深める	■講演・演習 個人で探究するテーマを見つける。		2
	5	リサーチクエスションの設定へ向けて指導する	■演習 個人の探究のテーマに関する調べた内容をクラス内で発表する。	活動(AL)の様子、ポートフォリオへの記入内容等に基づき、形成的に評価する	2
2	6	個人の探究テーマを見つけ、調べる。	■講演・演習 ルダシングワ真美さん、ガテラさん夫妻に来校して頂き、「ワンラブプロジェクト」の活動を通して考えたこと、生きることについての考えを深める。	活動への取り組みの様子に基づき、総括的評価を行う	4
	7	社会で活躍する職業人の話を聞き、社会課題について理解を深める	■演習 1学期に調べた個人のテーマに基づき、クラスの垣根を越えてグループをつくる。 - 個人で進めてきた探究内容を違うクラスの生徒たちと共有する。 - グループ内でテーマを決め、探究活動を行い、12月の社会人訪問先を決める。	活動(AL)の様子、ポートフォリオへの記入内容等に基づき、形成的に評価する	2
	8	クラスの垣根を越えたグループで探究活動を進め、深める。			
	9				
	10				
	11	社会人訪問を行い、探究のテーマについて知識を深める。	■体験活動 専門家や機関を調べ、自分達の調べた内容やケーススタディの答えに関する助言を校外に出てもらいに行く。アポイントは生徒達自身で行う。	活動(AL)の様子、ポートフォリオへの記入内容等に基づき、形成的に評価する	8
3	12		インタビュー活動6時間 ※インタビュー等であれば事前に質問項目を考えたり、撮影の許可もとったりする。	ポートフォリオ、生徒による自己評価、体験活動への取り組みの様子に基づき、総括的評価を行う	6
		グループでの探究内容を分かりやすく伝える工夫を学ぶ	■演習(2)・体験活動(4) 1・2学期の講演で学んだことを生かし、自身が調べた社会的な課題の発表に向けて準備を進める。 - 同じテーマ内で発表を行い、調べた内容を共有する。学年全体の前で発表する代表班を決める。		
	1	代表班の発表を学年全体で聞き、学んだことを共有し、深める。	■演習 代表班の発表を聞き、各テーマに関する学びを深める。 ※代表班のプレゼン資料は学校のHPやyoutubeにアップ、製本して広報活動で使用する予定であることも伝える。	ポートフォリオ、生徒による自己評価、体験活動への取り組みの様子に基づき、文章記述による総括的評価を行う	6

	2	1 年間のまとめ	■演習 ・ポートフォリオを用いた年間の学びの振り返り・自己評価 ■講演 ・1 年の学びを 2 年の探究活動に繋げるガイダンス。 ・修学旅行先の諸問題、文化、歴史等について講演を行い、春休み中の課題の種まきをする。	ポートフォリオ、生徒による自己評価、体験活動への取り組みの様子に基づき、文章記述による総括的評価を行う ポートフォリオ、生徒による自己評価、体験活動への取り組みの様子に基づき、文章記述による総括的評価を行う	1
	3	2 学年の探究活動事前学習			2
配当時間数の合計					3 5

令和7年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(2学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	年間におけるガイダンス (年間を通じてのキャリア教育意識付け)	1 現在の進路状況 2 保谷高校の現状 3 将来のこと (厳しい就職状況、就職後の現実) 4 今、何をすることが将来へつながるか	情報を収集しているか。また、進行状況、将来への展望につながっているかを感想、レポートから総合的に判断する	3
	5	個人の自己分析、及び現在の評定平均 (1学年時の評定平均把握)	3カ年の評定平均値の目標設定。進路の手引き昨年版を利用し、希望の進路を実現するには、2～3年でどのように学習に取り組む必要があるか、現在の評定を基に計画していく	上級学校が求める基準に基づく進路計画の正確さ妥当性から真摯に考える姿勢が読み取れるかを判断材料とする	4
	6	調査研究活動 研究発表会	将来の職業選択を基に、目指す学部・学科などの調査を通して進路情報を集め、整理・分析した内容を、他の生徒に向けて発表する	研究を通しての知識の正確さ、意欲的な活動、発表内容等から評価を判断する	4
	7	夏季休業に向けて	夏休みの学び方を理解させる (教科ごとに勉強法をまとめたものやオープンキャンパス計画)	夏期の計画立案状況によって意欲を読み取り評価材料とする	2
2	9	協働を通じての社会性、協調性育成	チームで働くこと (文化祭準備) 修学旅行における班行動の範囲を確認、沖縄の抱える問題点を考えさせる	協調性が育まれているか否か、その姿勢と意欲で判断する 修学旅行のレポートで判断	4 4
	10	調査研究活動 レポート作成	1学期で研究した分野をさらに深めてさせ、レポートを作成させる	研究を通しての知識の正確さ、意欲的な活動、レポートから評価を判断する	4
	11 12	過去から未来へ キャリアガイダンス 進路実現のスタート	主体的に進路研究を行い、自らのビジョンを明確な意識へつなげる 受験形態の研究、志望校の決定、受験日程表の作成により自ら進路計画を真剣に捉えさせ、キャリア意識を向上させる 小論文指導①	将来の目標と進路計画が現実的なものとなっているか、自己を正確に分析しているかを判断材料とする	5
	1 2	進路再確認作業	志望理由書を書く (書く練習だけでなく志望理由をまとめることで本当に自分が志望しているのか 深い部分を見つめることによる進路再確認作業) 小論文指導②	志望の根拠を明確にした理由書となっているか、文章に問題はないか等、表記の内容に基づいて判断する	3
3	3	まとめ	1年間の振り返り 合格体験報告会	次年度へつながる分析が出来ているか否かで評価する	2
配当時間 数の合計					35

令和7年度「総合的な探究の時間」の年間指導計画

(3学年)

1 単位時間の時間 (50) 分

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	年間におけるガイダンス、年間を通じてのキャリア教育意識付け	・進路志望の再確認を行い、教科横断的視野をもった志望理由書を完成させる ・年間計画を立てさせ、優先順位は何かを把握させる	担任が進行状況をチェックし、評価する	4
	5	「SDGs とは何か」講演と演習	・演習や講演を通して今社会で求められている SDG s を学ばせ、協働的視点から理解させる	演習の行動や講演の感想から意欲等を評価する	2
		「社会を知る」講話	視覚障害のある大学教授の講話を聞き、社会の厳しさと自己のおかれている状況を冷静に分析する	講話後の感想から意欲を評価する	2
	6	キャリア別弟子入り制度を導入	受験方法別にガイダンスを行い、個に適したキャリアビジョンを主体的に構築させ、実現を支援する	取り組みの姿勢、ノルマの達成で評価する	4
	7	調査研究活動	オープンキャンパスに参加させ、受験校の最終確認をさせるとともに、学びに向かう力の向上を図る	実現に向けての進み具合、的確な分析が出来ているかを評価する	4
2	9	協働作業を通じての社会性、協調性育成	クラスオープンキャンパス報告会チームで働くことを学ばせる (文化祭準備)	協調性が育まれているか否かで判断する	4
	10	キャリア別弟子入り制度第2弾を導入	受験方法別にガイダンスを行い、個に適したキャリアビジョンを主体的に構築させ、実現を支援する	取り組みの姿勢、ノルマの達成で評価する	4
	11	大学の進路相談会・願書指導	近隣の大学を呼ぶことで、地域社会との関わりを意識させる	取り組みの姿勢をルーブリックを用いて評価する	2
	12	志望先の最終確認	入試カレンダーや受験計画を自主的に作成させ、意識の高揚を図る。高校3年間で振り返り、10年後、20年後の自分のビジョンを考えさせる	取り組みの姿勢をルーブリックを用いて評価する	4
	1	社会への扉を開こう	・学校行事、部活動、学習などの学校生活全般を振り返らせ、本校の教育目標をどの程度実現し、どれくらい成長したかを認識させる ・自己の在り方生き方を念頭に置き、10年後や20年後の自分に手紙を書かせる	振り返りの状況や取り組み姿勢から評価する	5
配当時間数の合計					35